

下田市観光まちづくり推進計画（案）に対するパブリック・コメントの結果について

計画案の意見提出箇所等	意 見	考慮結果等
<p>P 1 6 (6)安心できるまちづくりの推進</p> <p>南海トラフ巨大地震による津波高・浸水域・被害想定が公表され、本市においては大変厳しい状況が示されました。今後予想される自然災害への対策を強化し、市民や訪れる人の安全を守り、安心して暮らし、訪れることのできるまちづくりが求められます。</p>	<p>下田市に来て1年になりますが、来たばかりのころは、どちらに行けば何があるかさっぱりわかりませんでした。おそらく観光客の方たちも同じような状況であると思います。津波の心配がある場所で何かあった場合にどちらに逃げたらよいかわからないというのは非常に不安な状況です。これでは楽しく観光も楽しめないと考えます。そこで、大きな地震が発生し、津波の危険がある場合にどちらに逃げたらよいか、逃げるのにどの程度の時間がかかるのか等を明示した誘導看板及び路面表示等をするべきだと考えます。路面表示ならそんなに経費も掛からずできるのではないのでしょうか。全ての場所がわずかな時間で逃げ切れる場所ではないのでかえって問題を表面化する恐れがあることから表示をしたくないということがあられるかもしれません。しかし、表示をしなければ地元のことがよくわからない観光客を一層不安にさせます。観光客の目線に立って考えることが重要であると考えます。観光客の目線に立って考えることが下田の観光振興につながると思います。下田市民のための観光推進計画だけでなく、観光客のための観光推進計画であってほしいと思います。</p>	<p>ご指摘のとおりと考えます。</p> <p>第3章 3「基本方針」の方針2（3）「誰もが安全で快適に楽しめる観光空間を整備します。」に一部記述がありますが、第4章 1「提案事業」方針2の2-(3)に記述が無いため、「自然災害への対策を強化する」の取り組み内容に次の内容を追加します。</p> <p>【 津波浸水域における避難誘導表示を整備します。 】</p>

下田市観光まちづくり推進計画（案）に対するパブリック・コメントの結果について

<p>提案(1)</p> <p>「白浜伊古奈桜」は「河津桜」以上の経済効果を秘めているのでは？</p>	<p>白浜の酒屋のご主人が「白浜伊古奈桜」と名付けて趣味で育てている早咲きの桜があります。この桜は驚く事に「河津桜」に比べて開花時期が早く、花が大ぶりでピンク色の濃さが特徴の桜です。開花時期が早いという利点は将来「河津桜」以上に人を惹きつける魅力がある桜に育つと想像できます。無名の「河津桜」を今日の知名度の高い「河津桜」にした河津町のように、「白浜伊古奈桜」を下田市民全体で知名度の高い「白浜伊古奈桜」にしていただきたいと希望します。10年以上はかかるであろう伊豆縦貫道の完成時には「河津桜まつり」の季節には河津町、南伊豆町では受け入れきれないほどの数の観光客が予想されます。伊豆縦貫道の完成時の目玉として今から「白浜伊古奈桜」の苗を育成することを、「白浜伊古奈桜」の持ち主様にご理解いただいて「下田市の観光の活性化の為」に交渉していただけたらと希望します。「品種登録まで3年かかる。」ということですが、桜の苗にとって1年1年は貴重ですので、相応の対価を払って「苗の育成」を了承していただくことを希望します。10数年前には「河津桜」を鼻にも掛けない人もいたようですが、「やってみよう！」という英断のおかげで今、「河津桜」の恩恵を受けています。「水仙まつり」→「白浜伊古奈桜まつり」→「河津桜まつり」となったら「桜まつりに行こうな(伊古奈)。」→「白浜に行こうな(伊古奈)。」→「下田に行こうな(伊古奈)。」となる将来が想像できると思います。ぜひ「白浜伊古奈桜まつり実現プロジェクト」を立ち上げることを希望します。「白浜伊古奈桜まつり」会場や移植の最適地については、「河津町」「南伊豆町」の祭会場に負けない私案を「プロジェクト」が立ち上がったときに提案させていただきます。</p>	<p>第2章 7「観光の現状分析」においても「強み」として「四季折々の花（水仙、あじさい、桜等）」と記述しておりますが、第4章 1「提案事業」方針1の1-(1)の記述が不十分のため、「美しい景観を活かす」の取り組み内容「市民、事業者、各種団体と協働して花いっぱい運動やゴミ拾い運動を推進します。」を</p> <p>【市民、事業者、各種団体と協働して<u>花の名所をつくる</u>とともに花いっぱい運動やゴミ拾い運動を推進します。】に修正します。</p> <p>なお、具体的な事業内容は「美しい里山づくりプロジェクト」で検討します。</p>
---	--	---

下田市観光まちづくり推進計画（案）に対するパブリック・コメントの結果について

<p>提案（２）</p> <p>「自然と歴史」を観て頂くだけでなく、心を燃えさせるような演出はできないか？</p>	<p>吉田松陰の「国を思う志の心」を下田観光の帰路にお持ち帰りしていただくことはできないだろうか？たとえが適切ではないかと思うが、講演会で一人の講演者の話を聴いて、多くの聴講者が心を熱くして帰路に着くように、とうりいっぺんの観光でない、「下田の歴史にふれて良かった。」と吉田松陰の「国を思う志の心」を身近に感じるような演出はできないだろうか？</p> <p>「自然も歴史」も変えることは出来ませんから、その「自然と歴史」で他の観光地との競争に勝っていく為には、その有る「自然と歴史」をいかに見せることができるかです。たとえばこんな演出はどうでしょうか？</p> <p>①下田においての吉田松陰の志をビデオ映画化したらどうでしょうか、特に弁天島から黒船に向かう時の志の高さは見せ所になるでしょう。そして同時にビデオ映画化していただきたいのが、「北方領土返還マラソン大会」が下田市で行われている理由です。これをセットで２０分程のビデオ映画にしたら、作成費は国からの補助が出ないでしょうか？</p> <p>②その映像を江戸後期の庵のような建物でまず見て貰います。</p> <p>③その建物の隣室は弁天島から吉田松陰が漕ぎ出した下田湾が一望できるような大きな窓にして、下田湾の眺望が目に焼きつくようにしていただきたい。そして座席と窓の間に弁天島・吉田松陰・黒船・下田湾等々の模型を制作していただきたい。つまり、模型と、眺望が重なるようにして、映像で見たその時の吉田松陰の志に浸っていただきたい。できたら２０分程の座禅が良いと思います。「国を思う志」や「北方領土返還」は日常ではつつい関心が薄いものですが、その歴史を背負った下田市の歴史的責任として観光客の皆様の方に響く演出をすることによって、日本中に熱い心をお持ち帰りいただければ、その輪が広がり、リピーターや今までに無い客層が増えるのではないのでしょうか？</p>	<p>本市は、幕末のペリー提督及びプチャーチン提督の来航に始まる日本開国の歴史の舞台として知られています。その中でも幕末の志士吉田松陰の下田での足跡は特筆すべきものがあり、松陰先生の志を伝えることは本市の責務であると認識しています。</p> <p>提案内容は、第４章 １「提案事業」方針１の１-(1)「歴史文化的資源を活かす」の取り組み内容「開港の歴史、史跡、史実を活かし、開国のまちづくりを推進します。」に含まれますので、今後、実施手法等を検討します。</p>
---	--	---

下田市観光まちづくり推進計画（案）に対するパブリック・コメントの結果について

<p>提案（3）</p> <p>反射炉跡は下田にしかない、他の観光地がまねることのできない歴史の宝物ではないのか？</p>	<p>「温泉や建物」で他の観光地に秀でることは簡単なことではないが、歴史的事実は、他の観光地がまねをしたくても、まねができないものである。現在「反射炉跡」として、認識できる物は「バス停の標識」だけである。この状態が「歴史を活用しましょう。」と真剣に考えてきた観光地なのかと疑問を感じます。費用を掛けて箱物を作る失政を繰り返すのではなく、小さくても良いですから「反射炉跡公園」を作ることを希望します。その理由は</p> <p>①開国日本で最初に「反射炉」を造築しようとした土地である。</p> <p>②「次は伊豆急下田駅だね！」という、いわば開国下田の入口的な立地であるので、電車の窓から看板等々が見える土地である。</p> <p>③今、テレビをつけると毎日のように散歩の番組を放映しています。快適な散歩のしやすい観光地になるにはトイレは必要最小限の設備です。トイレの建物の中にでも、「反射炉」等々の歴史を書いた看板なり、予算があるならボタンを押すと映像と解説がみれるような小型の機械でも設置していただいたらどうでしょうか？</p> <p>④「道路・水道・公園」これが行政のイロハのイであるならば、この「高馬」地区には公園がありません。</p> <p>⑤「高馬」地区は下田富士と寝姿山の眺めが美しい地域です。タクシーを止めて、観光客に眺望を楽しんでいただいている光景をたびたびみることがありますので、タクシー観光としても喜ばれるでしょう。</p>	<p>歴史の活用については、第4章 1「提案事業」方針1の1-(1)「歴史文化的資源を活かす」の取り組み内容「開港の歴史、史跡、史実を活かし、開国のまちづくりを推進します。」に含まれます。</p> <p>なお、道路・水道・公園などの具体的な整備は、本計画の対象外となります。</p>
---	--	---

下田市観光まちづくり推進計画（案）に対するパブリック・コメントの結果について

<p>提案（４） 馬車道があったようですが？ 馬車道があったという話を以前聞いたことがあります。どのような馬車道だったのかは調べていませんが？できれば、馬の銅像等々の設置を希望します。</p>	<p>その理由と希望の設置場所</p> <p>①「柳生」前の信号の道脇の木の植え込み地</p> <p>②散歩好きの観光客にとっての記念写真は「木の植え込み」ではない。</p> <p>③その土地の稲生沢川を挟んだ対岸は「高馬」地区である。「高馬」の名前の由来は、昔はこの地まで稲生沢川を利用して船で運んだ荷物を、この地で馬に積み替えた地であるという歴史からきているようであるので、「馬の銅像」のバックに「高馬」地区や「反射炉記念公園」が写る風景というのは、観光客の記念写真の撮影ポイントになると想像します。</p> <p>④伊豆急電車の窓からの風景としても、路線下ですので、伊豆急さんからも賛同をいただけるのではないのでしょうか？</p> <p>⑤多くの子供達の通学路でもありますので「馬車道」の銅像から、下田の先人の汗を感じてくれるのではないかと想像します。</p>	<p>馬車鉄道は、鉾石の運搬用に敷設され、蓮台寺から下田間を走っていました。</p> <p>蓮台寺鉾山跡も含め、本市の産業遺産としての価値は認識しておりますが、本計画期間内での実現は困難な状況です。</p>
<p>提案（５） 観光予算の使い道を超一流にしなければ、一流の観光地はなれないのでは・・・？</p>	<p>今まで、視察等々で多額のお金が使われてきたと想像しますが、その責任を負わされた多くの方達の汗と苦勞をしても、その成果は現状の観光業の実態です。観光予算の使い道をかえる時ではないのでしょうか？</p> <p>使い道の提案とその理由</p> <p>①一流と二流の差はプロとアマの差ということでしょう。生活できないのがアマです。観光立市を掲げる下田市は観光地としてプロでなければ「快国下田」にはなれません。</p> <p>②テレビの話で恐縮ですが、一流の設計士や一流の料理人の想像出来ないような作品から「言葉にならないような感動」を貰います。狭小の変形地でも「大満足の家を建てます。」・リフォームも「想像できない大感動の家に変えてくれます。」料理にしても「やはり一流の人は違う。」と感動させられます。</p>	<p>ご指摘のとおりと考えます。</p> <p>予算については、第２章 ８「観光の主要な課題」（８）で課題として捉えています。</p> <p>また、講師については、各プロジェクトを実施する中で、一流の講師の招聘に心がけます。</p>

下田市観光まちづくり推進計画（案）に対するパブリック・コメントの結果について

	<p>③下田市を一件の家とするならば、「自然も歴史」も動かさない土地として、「これらの一流の人達はどのような家を建てるのだろうか?」「自然と歴史」をどのように見せるのだろうか?設計士の窓から自然の見せ方を「借景」というようですが、一流の設計士は「単なる借景」ではなく、想像をはるかに超えた「大感動の借景」にします。一流の設計士は下田市という家に何処にどのような大きさの窓をどのように、どの方向で付けるのであろうか?下田の「一流の自然と歴史」を「単なる自然と歴史」の見せ方になっているということはないだろうか?</p> <p>④これからは、視察等々で少しずつ予算をつかうのではなく。こつこつ超一流の講師料を貯めてから、超一流の人を講師に招いたらどうでしょうか?</p> <p>⑤視察等々では一部の関係者しか成長しません。超一流の人からは若者をはじめ多くの方が刺激をいただけるでしょう。何年かに一人でも良いと思いますので、世界的視野で、どんな分野でも良いと思いますので、下田市民全員が「一番の観光地を目指そう」という自信をいただける講師に「下田の自然と歴史」の見せ方を伝授していただきたいと思います。</p>	
<p>提案（6） 第4章 アクションプラン 前段 故郷で学び育った者が卒業後、職業選択をする際に当地で賄える町作り（現在、職業選択が出来ずにその俣首都圏に勤務して結婚、世帯を持つ。）</p>	<p>現行の町から市への移行条件・人口5万人以上、然るに当市24,400人は観光誘客仕組みを論じる前に、人口減の食い止めが先である。 賀茂1市5町・昨年のゼロ歳児382人からして、緊急食い止め作戦が重要 ・知るべし・・・全国の市人口812市中775番目（東京等の区を入れて）</p>	<p>人口減少と少子高齢化社会への対応は、第4次下田市総合計画においても大きな課題と捉えています。本計画は、第4次下田市総合計画の分野別計画と位置づけられ、定住人口のみに頼るのではなく、交流人口まで対象にしたまちづくりを推進するものです。</p>

下田市観光まちづくり推進計画（案）に対するパブリック・コメントの結果について

<p>提案（７） これより本論 首都圏から人を呼び込む</p>	<p>滞在・滞留・２箇所居住・移住 等 人・世帯 呼び込み戦略の構築 空き家を市が管理して斡旋仲介、維持管理（外注=不動産屋、建設業） 旅館・ホテル・民宿の空き室も活用 経済面 食事、自炊、生活面工夫 家賃ゼロでも生活費が回る要検討 東京・横浜各区長相手に営業活動・グループ転居、滞留等を要請する 厚生省・労働省と高齢者世帯・うつ病リタイアに環境提供長寿、快癒を （医療、介護、施設設備保全建設 職の波及を狙う）</p> <p>（参考資料） 65 歳以上東京2010 年 2 7 3 万人(単身62 万世帯夫婦のみ41 万世帯 ※ 要介護認知症30 万人強) そして2015 年65 歳以上43 万人増 横浜市人口370 万人 65 歳以上74 万人 25 年後40 万人増 この人たちは多芸人生OBで使い道あり（却って地元使い切れないかも）</p>	<p>本市の魅力を発掘し、磨き、発信することにより、リピーターが増え、その結果、下田ファンとなり、定住に結びつくこともあると考えています。本計画では、暮らす人も、訪れる人も快適なまちづくりを目指していますが、首都圏は大きな市場と位置づけています。</p>
<p>提案（８） 防災で人を呼び込む</p>	<p>南黒潮町と下田市が中央防災会議34mと33m 双壁表現を逆手に取る 安心安全 住み易い 町づくりをする 予算を注ぎ込んで防災町づくり 全国から視察研修にくる町を作る（ハード・ソフトの人材と陣容構築する） 自給自足の町（水・ガス・食料・衣類・医類・）を目指す 近時、空き家4/5 補助=過密首都圏視野 上記参考資料見れば猪瀬知事 （必死で研究、検討している。成り行き任せは衰退します）</p>	<p>ご指摘のとおり、安心安全な防災のまちづくりは、重要な課題であると考えます。 なお、具体的な内容については「都市計画マスタープラン」と「地域防災計画」の見直し後、推進することとなります。 ただし、ご提案の「自給自足の町」の実現は、資源や生産能力等の問題により困難と考えます。</p>

下田市観光まちづくり推進計画（案）に対するパブリック・コメントの結果について

<p>提案（9） 道の駅 魚市場と連携 食品・加工 品・料理教室（栗原はるみさん6 回）</p>	<p>セブンイレブンの向こうを張って7時から23時までの営業を関係業者で 詰める。 出店は専業もOK 1店を3チーム交代とかもOK とか 出し物も各種募る 里山荒廃 耕作放棄地増加 チマチマ努力は解決しない</p>	<p>第4章 2「提案プロジェクト」(4)「美 味しいまちづくりプロジェクト」に含まれ ます。 ただし、道の駅営業時間等は、本計画の 対象外となります。</p>
<p>提案（10） 牧場を作り 牛 馬 ヤギ 等を放牧 する 食肉加工と乳製品の仕事を 構築する。</p>	<p>猪・鹿の撲滅にハンターツアーを計画して捕獲獣を購入して製品化する ハンターツアーは全国初で計画、宿泊半額を市で補助。 購入処理は当面 施設がないので伊豆市と提携する。</p> <p>（参考） 関連プロジェクトには〇〇のみの専任者が複数名で担当して、行政TOP、議員各位等責任者を公表して背水の陣を敷く。 重ねて15年後賀茂地区高校生徒382人を視野に。</p>	<p>第4章 2「提案プロジェクト」(1)「美 しい里山づくりプロジェクト」と(4)「美 味しいまちづくりプロジェクト」に含まれ ます。 ただし、牧場設置は、本計画期間内での 実現は困難な状況です。</p>